

第6期 第8回 ボランティア運営協議会 団体支援部会活動報告書

	令和5年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
団体支援部会日	第10回(4/20)	第11回(5/11)	第12回(6/8)	第13回(7/13)	第14回(8/10)	第15回(9/14)	第16回(10/12)	第17回(11/9)	第18回(12/14)	第19回(12/11)	第20回(2/8)	第21回(3/14)
①市民大学との連携	受入れ団体の募集 プレゼン資料作成 9/20 マッチング会 実地体験											
②プレゼンテーションのスキルアップ	9/3基調講演(サポートセンター) 11/9自己診断結果の解説											
③プロボノの調査、設立の検討	全体計画 広報・PR 10/21説明会 市民団体・ワーカー募集 マッチング会 1/10振り返りミーティング 2/8参加団体と懇談会											
④参加団体の問題点等について情報の収集・検討	昨年度で終了											

<p>「活動内容(3ヶ月間)」</p> <h3>1.市民大学との連携</h3> <p>① ボランティア学科のマッチング・実地体験の内容は来年度に向けさらに向上を目指して取り組む(興味→参加)。26団体にのべ79名が参加。 実地体験アンケート集計結果 A.体験実習満足度:約9割が満足 B.体験した団体の対応:良い以上75%、普通を含めると97% C.体験実習団体を選んだ理由:活動内容に興味があった26%、活動場所が自宅に近い22%、社会貢献性が高い15%、時代のニーズのマッチ13% E.今後の活動に役立つと感じたか:感じる37%、大変感じる29%、分からない29%、感じない5% ※令和5年度は実地体験において、26団体にのべ79名が参加した。(マッチング参加団体はそのうち15団体)</p> <p>② まちづくり学部修生にアンケート送付、その中に市民活動情報取得の登録方法を提示</p> <p>③ いきいき学部の共通講座は、市民活動/協働、プロボノ、活動団体紹介を行う</p> <p>④令和5年度のマッチング状況について、協力団体へのフィードバックを確認したいので市民大事務局からアンケート調査中、3/28締切日。 ※その他 来年度より市民大学の運営は「公益財団法人 船橋市文化・スポーツ公社」に委託。</p>	<p>「周知事項」</p>
<h3>2.団体のスキルアップ</h3> <p>9月3日に認定NPO法人藤沢市民活動推進機構理事長(手塚明美氏)による講演会「ボランティア・市民活動の新しいカタチ」で17項目による自己診断設問が提示され、後日3団体が診断結果を提出、11/9にZoom会議で手塚講師から自己診断に関する説明と解説を受け、各団会で運営等に役立てる方向で終了する。自己診断の17項目は”ふなばし市民力発見サイトブログ”に投稿している。</p> <h3>3.プロボノに関する検討</h3> <p>① プロボノ説明会(10/21)で4団体が強い興味を示し2団体(スペシャルキッズプロジェクト、発達障害支援ネットYELL)が登録を実施。 ・支援内容は2団体ともホームページの作成、立ち上げと共通のテーマ、登録後1週間程度でマッチングが成立、12月には成果物納品、完了。</p> <p>②1月10日”ふなボノ”主催ZOOMミーティング～スペシャルキッズプロジェクトの報告 ・経験豊富なワーカーの的確な関わりと共に、スペシャルキッズプロジェクトが団体の存在意義や使命の整理が出来ていた点とPCスキルの高さも加わりスムーズに運んだ。</p> <p>③2月8日プロボノ参加団体との懇談会(スペシャルキッズプロジェクト杉尾氏、発達障害支援ネットYELL松井氏、宗形氏が参加) 参加の動機;説明会場が親しみのあるサポートセンターで配布チラシも良かった。説明会でHPの作成の例があった。スペシャルキッズプロジェクトはHPの重要性に気付き参加。YELLはHPを随時更新をしたいため(GoogleSitesで作成)。 参加して良かった点;“ふなボノ”ワーカーの方の支援、指導が良かった。疑問点は次回ミーティングで解決でき、例示が良く進行しながら学べた。HPを作成することにより会員の多数に団体内での役割分担を割振ることが出来た。組織内での改革に繋がった。 ふなボノの上原氏が適宜進捗のフォローなどをしてくれて助かった。 今後の展開;両団体とも次にホームページ作成講座等を企画した場合に、補助程度は可能。 その他:市民団体間同士の交流を行いたい。</p>	<p>「検討課題」</p> <h3>今後の団体支援部会の活動について</h3> <p>① 目標:船橋市の(登録)団体が活発に活動できるようなサポート、環境をつくる</p> <p>② 現状:高齢化・人材不足を始め、新規参加者の減少、広報活動の仕方(IT活用)、資金調達、団体運営の仕方(課題整理)などの困りごとを抱えている。</p> <p>③ 方向性:市民活動サポートセンターが各団体から何かあったら相談が出来る頼りになる存在として認知されていない。 またなんでも相談会の認知度、利用率も芳しくない※直近3年では、R3は4件、R4は6件、R5は10件と増加傾向ではある。 ⇒何かあったら相談できる頼りになる存在となる(サポートセンターで受ける/窓口) ・団体支援部会は登録団体のみならず、ボランティア希望者などから頼りにされる場づくりを目指したい</p> <p>④ サポートセンターで相談等を行いたい場合、どなたに相談して良いかが明確でない。</p> <p>【好例】スペシャルキッズプロジェクトとサポートセンターとの関わりは、サポートセンターの「何でも相談」に来所したことがきっかけ。その後、プレゼン講習会に参加し、プロボノ説明会に参加しHPの作成を行った</p> <p>【計画案】 市民力発見サイトのTOP PAGEに「サポートセンターのメニュー(項目)」を作り、相談事項に誰でも対応出来る様にする。</p>